

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792600025		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	グループホームもも太郎さん(坂下)		
所在地	福島県河沼郡会津坂下町大字見明字古屋敷771-1		
自己評価作成日	令和2年10月14日	評価結果市町村受理日	令和3年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年11月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年に入り正社員2名入社し、20歳代の職員が増え若返りが感じられる。正社員全員が介護福祉士の資格を取得している。職員は明るくご利用者様に接する事が出来ている。
 今年に入り新型コロナウイルスが流行し、ご利用者様の外出、ご家族様の面会の制限をかけている為にご利用者様にはストレスを感じる部分が多々あったと思うが、職員が行事以外にも色々なアイデアでご利用者様に喜んで頂く事が出来ている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.現在はコロナ禍で制限されているが、地域から総合防災避難訓練・除草・除雪等の協力を得、事業所からは町内のクリーン作戦・運動会・文化祭への作品出展・見学に参加し中学生の職場体験やボランティアを受け入れる等、日常的に地域との交流を図っている。
 2.コロナ禍により外出が中止なので利用者一人ひとりの買い物職員が引き受け、日常生活に支障をきたさないよう配慮した支援に努めている。
 3.食材は地域商店での調達や職員の差し入れ等を活用し、利用者の好みに合わせて職員が献立を作っている。コロナ禍で外出が出来ないため、ホットプレート調理・ケーキバイキング・パン祭り・事業所内夏祭り・誕生会等、メニューを工夫し、食の楽しみや気分転換を図る取り組みをしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者、職員会社理念、施設理念を共有し、実践に繋げている。職員の自己評価をもとに管理者が評価し個別面談を行っている。	運営理念は、開所以来のものであるが法人運営理念を基に地域密着型の意義を踏まえて作成している。また、玄関へ掲示し、管理者と職員が常に確認・振り返りし、職員間で共有し実践へつなげるよう努めている。利用者・家族へは入居契約時に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等に積極的に参加している。昨年より坂下町地域包括開催のグループホーム協議会が設立され他グループホームの管理者同士意見交換が出来ている。多職種別の会議にも参加させて頂いている	町内会へ加入している。現在はコロナ禍で制限されているが、地域のクリーン作戦・運動会・文化祭へ参加している。また、中学生の職場体験受け入れのほか、地域の方から事業所内の除草や除雪の協力をいただく等、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今までなかった他職種別の意見交換の場があり、徐々にではあるが地域との連携を図る事が出来ているが、まだまだ地域との連携が必要である。認知症の理解を地域の方に浸透するよう日々勉強している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議年6回開催し運営状況を説明し、ご家族様、包括、役場、区長様と情報交換をし、意見を頂きサービス向上に生かしている。今年は開催が2度中止となっている。	地域の各分野からの参加・協力により定期的に開催し、運営に関して率直な意見・提言があり、地域情報等も得ている。頂いた意見は職員会議で話し合いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にて役場担当者様との情報交換を行い運営方針、ケアサービスについて説明しアドバイスを頂いたり、不明な点を担当者へ相談する事で協力関係を築けている。	運営推進会議や地域包括支援センター主催による介護事業所関係者との会議出席で、役場担当者に事業所の運営や現場の実情を伝え理解を得ている。また、町役場へ直接出向き、ケアサービスについて相談する等、協力関係の構築に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束廃止委員会設置し会議を行っている。内部研修でも身体拘束を行っている。身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	指針に基づいて、委員会を定期的に開いている。また、職員による教育委員を中心に、利用者へ安心・安全なケアを提供するため、内部研修を実施し、身体拘束をしないケアの実践へ向け取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の内部研修を行っている。どこまでが虐待にあたるのか、管理者、職員が把握して業務を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみ会津保険事務局との情報交換を行っている。後見人との意見交換も管理者のみ行っているのが現状。今後各職員にも学ぶ機会を与えたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時に説明を行っている。ご利用者様、ご家族様が納得して頂けるように説明している。入所後もご家族様が不安、疑問点についての対応も行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催し意見交換を行っている。3ヶ月に1度ケアプラン作成前にご家族様、ご本人様の要望を聞きケアプランに反映している。施設玄関前に苦情、意見箱設置し、苦情窓口案内を提示している。今年は家族会を開催出来ていない。	運営推進会議や家族会、介護支援計画作成時の話し合い、面会時の声掛けなどから意見要望をこまめに聞くよう努めている。出された意見要望は、職員会議で話し合い運営に反映させている。なお、現在コロナ禍により事業所での会合は中止となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員との話し合いの時間を多く設けてカンファレンス、職員ミーティングを開き職員の意見を取り入れご利用者様の支援に活かしている。	管理者は、毎月の職員会議や日々のケアでの気づきを気軽に話せるような雰囲気作りに努めている。また、個別面談を通し思いや意見を話す機会を設け、提案や意見を運営に反映させる取り組みをしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境を整えられるよう日々管理者、教育委員で相談し職場の雰囲気や良くなる様努めている。向上心を尊重できる職場作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修を計画的に行っている。研修だけではなく日々の業務の中で疑問に思う事を職員全体で話し合いの中で解決し統一したケアを行っている。今年外部研修は出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	坂下町包括主催の多職種連携セミナーに管理者、ケアマネージャーが参加し同業者との意見交換、情報交換を行っている。職員ミーティングにて他職員に情報を下ろしてサービス向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に実態調査を管理者、ケアマネージャーで行い要望、不安を聞き職員と情報交換を行ってサービス開始している。入所してから会話の中でご本人様の信頼関係を築けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの段階で不安、希望をお聞きし、要望を聞きながらサービス導入を行っている。入居されてからも要望を聞いている。ご家族様の関係作りにも努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプラン作成時ご家族様、ご本人様の要望を取り入れ作成している。ご本人様、ご家族様の関係性を築けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は業務に負われる事なく、ご利用者様の話を傾聴し、笑顔を引き出せる努力をしている。職員はご利用者様をより深く知ろうと努力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は会社の理念である家族の絆を大事にし、来所時には笑顔で対応できている。ご家族様の意見を尊重し、良い関係が築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援にて坂下町周辺の外出支援を行っている。友人の方、親戚の方の面会あり。今年に入り外出支援、面会は制限している為、出来ていない。	日々の活動様子のアルバムを居室に置き、面会時の話題提供にしている。自宅のある地域へのドライブは好評で自然と昔話が出てくる。また、コロナ感染拡大以前はすべての利用者に家族・親戚の訪問があり、地域ボランティアの中には利用者の知人が多く、馴染みの関係が継続されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	各ご利用者様ができる事は行って頂いている。リネン交換、居室のモップかけ等。ご利用者様のできる事、出来ないことを把握し、支援させて頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご利用者様の家族から相談を受ける時がある。その時は真摯に向き合い、話を傾聴し出来る事の協力はさせて頂いている。退去された次の施設、病院へ移る際的確な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントにてご利用者様の要望意見を聞きカンファレンスにて話し合いを行っている。支援の仕方変更の場合、統一したケアができるように取り組んでいる。	入居契約前に管理者・介護支援専門員で自宅を訪問し、利用者・家族・担当介護支援専門員等から生活歴・病歴・これからの生活に対する意向・思い等を聞き取っている。また、担当職員が日々の暮らしの中から、暮らし方への希望や思いの把握に努め、意向に沿った暮らしになるよう支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	カンファレンスにてご利用者様の生活歴、生活環境を把握しご利用者様が過ごしやすい環境を提供できている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、受診記録、ケア記録を確認し心身状態について観察を行っている。ご利用者様の状態把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度のカンファレンスを行い職員同士で今後どのような支援が必要か話し合っている。ご本人様、ご家族様、後見人様の要望を聞きながらケアプランを作成している。	入居時に利用者・家族から生活への意向を聞き取り、意思確認が困難な場合は介護記録から把握し、1カ月の介護計画を作成している。その後、モニタリング記録からカンファレンスを繰り返し、3カ月毎に介護計画書を作成し家族へ説明同意を得ている。状態変化があった場合はその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録し気づきがあれば特記事項とし記録、申し送りを行っている。各職員に情報交換を行っている。ご本人様の状態に変化があれば、介護計画の見直しを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様、ご家族様のその時生まれるニーズに対応している。その都度職員同士話し合いながら柔軟な支援対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを招き、歌、踊りを披露して頂いている。行事には社会福祉協議会より道具を貸していただいている。2ヶ月に1度散髪して頂いている。今年に入りボランティア活動は行っていない。職員にてレク活動を充実させている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医を探しているが、対応できるドクターがいない。坂下厚生病院へ7名会津医療センターへ2名受診している。歯科往診継続中。緊急受診以外ご家族様対応で行って頂いている。今年に入り職員対応にて定期受診を行っている。	通院はかかりつけ医受診が主となり、家族が同行しているが、コロナ禍により職員が通院対応をしている。歯科は、協力病院の医師により月2回の往診を受け、適切な歯の治療を受けている。また、現在、地域の医療機関に往診対応をする病院が無い為、管理者は、地域を広げて奔走しているが、難しい状況である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場に看護師がいないのが、現状の為、介護職員がドクターへ状況を説明し薬の調整を行っている。緊急受診の場合は、管理者の指示で受診対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院した日に病院側と情報交換を行っている。介護サマリー提供している。入院期間中も病院と連絡を取り合い早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度科、終末期を迎えたご利用者様に対しご家族様の意向を尊重し、介護職が何処までできるのか把握し、緊急受診体制を整えている。グループホームでの生活が困難と判断した時病院の主治医、ご家族様、管理者、ケアマネージャーにて担当者会議を開催している。主治医の指示に従い支援を行っている。	地域に往診対応をしている病院が無い為、契約時に利用者・家族へ事業所で出来る支援の範囲を説明し同意を得ている。また、看取り期は、主治医・家族・事業所と話し合い、家族の了解の上、主治医の方針に沿った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、各ご利用者様も個人情報があり、即座に対応する事が出来る。事故発生時には管理者報告とし、緊急受診をする事となる。救命救急年1回実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の総合防災訓練を実施している。災害マニュアルに沿って訓練を行っている。地域の方にも参加して頂いている。今年に入り消防署の隊員参加できず、防火管理者主催にて訓練実施している。	年2回、消防署立会の総合避難訓練を地域住民の参加協力を得て実施していたが、現在、コロナ禍により事業所のみで行っている。ハザードマップの確認や垂直避難の方法、町の指定避難場所など緊急時の対応を職員間で共有している。3日分の食料や水、卓上ガス台、電池、懐中電灯を備蓄し利用者の安全・安心確保に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様に対して尊重、プライバシーの確保徹底の為、内部研修を行いプライバシーの保護について毎年行っている。	接遇・会話術・プライバシー・個人情報についての内部研修を実施し、利用者一人ひとりの人格を尊重した言葉かけや対応が適切に行えるよう努めている。また、個人情報保護の徹底に取り組み、鍵のかかかかるロッカーやキャビネットで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の日常での行動を観察し、何ができる事を分析し自己決定ができる様に支援する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースに合わせ希望に沿った支援を行っている。ケアプランに沿った支援が出来ている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご家族様に協力して頂き洋服の購入、床屋2ヶ月に1度の散髪、毛染めを行って頂いている。ご利用者様と確認しながら、洋服を選んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	行事の料理盛り付け等ご利用者様に行って頂いている。職員もご利用者様と一緒に食事をして頂いている。職員が調理中色合いに気を配りながら調理してご利用者様にも喜んで頂いている。食事介助の必要なご利用者様に対して飲み込み確認しながら、介助をしている。	食材は、地域の商店購入や職員からの差しれを活用し、利用者の好みに合わせた献立の提供に努めている。現在は外食は控えており、おやつバイキング・バン祭り・誕生会・四季の行事等に出来る範囲で調理を手伝っていただき、食事が楽しいものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様にあつた食事を提供している。水分摂取も1500ccを目安にし摂取している。カロリー制限のご利用者様に対してドクターの指示に従い食事提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回の歯科往診あり口腔内の清掃をして頂いている。自力で歯磨きできるご利用者様には見守り実施、声掛け行っている。出来ないご利用者様には歯磨きティッシュにて口腔ケアの支援を実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し定期的トイレ誘導、パット交換を行っている。職員一人ひとりがパット軽減できるよう考え行動している。排便管理も出来ている。	24時間の排泄記録を基に一人ひとりの排泄パターンや排泄サインを把握し、定時及び排泄パターンに合わせ、個人を尊重したトイレ誘導を行い、トイレでの自立排泄に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ドクターの指示のもとセンソンドにて排便調整を行っている。自立されているご利用者様には、ホールトイレを利用して頂き確認が取れている。朝食時牛乳を提供させて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日置きに入浴して頂いている。午前中、午後と分けて入浴支援を行っている。ご利用者様に確認をしながら順番を決めずに支援を行っている。出来る限り自力にて洗身、洗髪を行って頂いている。	入浴は、週3～4回を基本とし、一人ずつ浴槽の湯を入れ替え清潔を確保している。入浴を拒む方へは、言葉を変えて誘導するなどの工夫をしている。また、入浴剤や菖蒲湯・柚子湯で季節を感じながらゆったりと入浴を楽しんでいただけるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールにて過ごされる利用者様が多い。歌、体操等レクリエーションに取り入れ支援している。休息されたいご利用者様には居室にて休んで頂いている。各ご利用者様に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿った服薬支援を行っている。定期受診時にご利用者様の状態をドクターに報告し、薬の調整を行って頂いている。副作用があった場合、坂下厚生病院へ連絡し、ドクター、薬剤師の指示に従って服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各ご利用者様が出来る事を行って頂いている。洗濯物畳、干しテーブル拭き、盛り付け等。日頃の生活を観察し出来る事をご本人様へ行って頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事事だけではなく、定期的に外出支援を行っている。今年に入り外出支援は出来ていない。(外出制限している為)	地域の名勝地への散歩、ご当地グルメの夕食、個人宅周辺へのドライブなど利用者の希望に沿った外出支援をしていたが、コロナ禍により中止としている。現在、周辺への散歩で利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関しては管理できるご利用者様であれば所持して頂いている。買い物支援、外出支援時に欲しい物を購入して頂いている。今年は、外出は避けている為施設職員が購入し、立て替えとしてご家族様へ請求を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様がご家族様へ電話で話をしたい時職員が電話対応し、ご本人様に代わっている。手紙でのやり取りを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファを使用し、ご利用者様が休息できるスペースを確保している。ご利用者様が行事や日常生活での生活様子を写真に収めアルバム作成を行っている。1日3回温度、湿度チェックを行っている。	今年はコロナ禍により町内の文化祭が中止となっているが、文化祭に向けて作成したはり絵などの作品が、リビング・廊下に掲示している。太陽の光が入る窓際にソファを置き、周囲の田園風景が見渡せ季節を感じられる。温度・湿度を職員が管理し居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったご利用者様同士会話ができるよう咳を近くにしたり、テレビをみたいご利用者様にはテレビの近くに席を設ける等、状況を工夫しながら工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	職員は、ご利用者様のプライバシーを大切に、各ご利用者様の馴染みの物をご家族様に持ってきて頂き居室へ置かせて頂きご利用者様が居心地よい居室を提供出来ている。	ベッド・整理タンス・クローゼット・テレビ等を準備し、寝具・衣類等を持参すれば生活がスタート出来るようになってきている。また、日々のスナップ写真で個別アルバムを作り、居室に置くことで訪問家族と会話が弾んだり、生活の様子が分かり安心を得ている。好みの飾り物や家族写真、位牌などを置き、その人らしい部屋となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内、居室に危険物を置かないようにしている。居室へ手すりを置くなど工夫している。居室入り口にご利用者様の名前を貼り間違いが無いようにしている。		